

ほうちゅよへびぎのおっちゃん

大阪 三年 ちさと

九月一日学校の帰り、だい二ねや川の赤い道のむこうの坂の下で、すわって何かをしているおっちゃんがいました。四年生の男の子が二人、立って見ていました。

わたしとさやとあやかで、それを見に行きました。

おっちゃんは、青い半そでのシャツをきて、グレーのジーパンをはいていました。木の箱を前において、たためるてつの小さいすにすわっていました。箱の横に、２リットルのペットボトル二本と、きれがおいてありました。木の箱の上には、まな板みたいな板が置いてあって、その上に、うすいはい色の長四角のと石がありました。おっちゃんの後ろのちゅう車場のあみに、（ほうちゅうとぎ 一本 三百円）と書いた紙がかけてありました。

おっちゃんは、先がとんがったほうちゅうを左手に持って、ほうちゅうの切れるとこの真ん中へんを右手でおさえて、じっと見つめながら、と石の上で、シャツシャツとほうちゅうをといでいました。おっちゃんはわたしたちの名ふだを見て、

「八戸ノ里東小学校か。」
と言いました。

おっちゃんは、ほうちゅうをとぐのをやめて、よこにおいていたにんじんをもちました。シュツとにんじんを切って、ほうちゅうが切れるかをたしかめました。にんじんの先が、下に落ちました。おっちゃんは、

「前らへんやな。」
とひとりごとを言いました。それからほうちゅうの先の方をまたと

ぎはじめました。おっちゃんは右手でほうちようの前をおさえて、左手で後ろの方を持って、すばやくけずりました。

もう一度、おっちゃんはにんじんをほうちようで切りました。さつきより切りやすそうで、すっと切れたみたいに見えました。おっちゃんはほうちようを箱の中にあっただ入れ物の水につけました。それから箱の中の黒いと石を出して、はい色のと石と入れかえました。わたしは、

「それで何するん？」

と聞きました。おっちゃんは、

「ほうちようを、つるつるにするねんで。」

と聞きました。おっちゃんが、黒いと石でほうちようをときはじめました。おっちゃんが、

「この水、とんで服についたらとれへんようになるから、はなれとさ。」

と聞きました。おっちゃんはまた、シャツシャツとほうちようをときました。

十回ぐらいとぐと、と石の上にこげ茶色の水がたまりました。わたしは、（よく手を切ったりもするのかな。）と思いました。おっちゃんはほうちようを右手にもって前に出して、くるくるとうらおもてを見て、

「これでいいやろう。」

と聞きました。おっちゃんは、ペットボトルに入った水をほうちようにかけて、ほうちようをあらいました。おっちゃんは、

「これで、きれいになったわ。」

とほうちようをきれいでふきました。さやが、

「これで、おわり？」

と聞きました。おっちゃんは、

「これで、とりにきてくれんのまつだけやで。」
と言いました。